

## 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
ご利用いただきたくご案内いたします。  
当社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽  
を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、  
よろしくお願い申し上げます。

敬 白

### 記

■ 実施日 平成 24 年 6 月 18 日（月）ご依頼分より

### ■ 新規項目内容一覧

項目コード (統一コード)	検査項目	検査 材料	容 器	保 存	所 要 日 数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
6447 9	曜日指定 EWS-Fli1 キメラmRNA定性	組織 250mg	r	凍 結	12~ 16	2100 ※1	RT-PCR	キメラ mRNA を 検出せず	受託可能日は月～金曜日 です。組織材料は悪性腫 瘍が認められていること を確認の上、ご提出くだ さい。他項目との重複依 頼は避けてください。本 検査方法ではコンタミ ネーションの影響がより 大きくなりますので、検 体採取にあたっては取り 扱いに十分ご注意ください。 &G
6448 6	曜日指定 SYT-SSX キメラmRNA定性	組織 250mg	r	凍 結	12~ 16	2100 ※1	RT-PCR	キメラ mRNA を 検出せず	

● EWS-Fli1 キメラmRNA 定性  
 ● SYT-SSX キメラmRNA 定性

ユーイング肉腫や滑膜肉腫の鑑別診断に有用な融合遺伝子を検出します。

骨軟部腫瘍は、比較的発生頻度は低い疾患ですが、非常に種類が多く、同じ腫瘍でも組織像が多彩なため病理診断が難解な疾患とされています。

近年の研究で、それまで白血病などの造血器腫瘍に特徴的とされていた染色体転座が、一部の悪性骨軟部肉腫でも起こっており、この転座の結果、ユーイング肉腫や滑膜肉腫に特異的な融合遺伝子が生じていることがわかってきました。治療法が異なるため鑑別する必要があり、病理診断が困難な症例では、これらの融合遺伝子の検出が有用とされ、利用されてきています。また、これらの遺伝子異常の情報から新しい分子標的療法の研究が進められています。

・EWS-Fli1 融合遺伝子は、染色体転座 t(11;22)(q24;q12)によって生じる融合遺伝子で、ユーイング肉腫および未分化神経外胚葉性腫瘍 (PNET) の8割以上と、最も高頻度に検出されます。

・SYT-SSX融合遺伝子は、X染色体と18番染色体との転座t(X;18)(p11.2;q11.2)により生じる融合遺伝子で、滑膜肉腫の9割以上に検出されます。

EWS-Fli1融合遺伝子、SYT-SSX融合遺伝子共に健常人では認められません。

▼検査要項

検査項目名	EWS-Fli1 キメラmRNA定性	SYT-SSX キメラmRNA定性
項目コード No.	64479	64486
検体量	組織 250mg	組織 250mg
容器	r	r
保存方法	凍結保存してください。	凍結保存してください。
所要日数	12~16日	12~16日
検査方法	RT-PCR	RT-PCR
基準値 (単位)	キメラmRNA を検出せず	キメラmRNA を検出せず
検査実施料	2100点 (D004-2 悪性腫瘍組織検査のハ)	2100点 (D004-2 悪性腫瘍組織検査の木)
備考	受託可能日は月~金曜日です。組織材料は悪性腫瘍が認められていることを確認の上、ご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 &G	

▼保険算定条件 (平成24年3月5日保医発0305第1号より抜粋)

- 悪性腫瘍遺伝子検査は、固形腫瘍の腫瘍細胞を検体とし、PCR法、SSCP法、RFLP法等を用いて、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った(中略)悪性骨軟部組織腫瘍におけるEWS-Fli1遺伝子検査(中略)又はSYT-SSX遺伝子検査(中略)について、患者1人につき1回に限り算定する。
- 悪性腫瘍遺伝子検査を算定するに当たっては、その目的、結果及び選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- 悪性腫瘍遺伝子検査、造血器腫瘍遺伝子検査又は免疫関連遺伝子再構成のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

●参考文献

V.Adams, et al : Diagnostic Molecular Pathology 5(2) : 107~113, 1996.  
 (EWS-Fli1 キメラmRNA 定性検査方法参考文献)  
 Hiroshi Terasaki, et al : Japanese Journal of Clinical Oncology 31(5) : 212~216, 2001.  
 (SYT-SSX キメラmRNA 定性検査方法参考文献)  
 久岡 正典 : 医学のあゆみ 29(10) : 963~967, 2009. (2項目共通 臨床的意義参考文献)